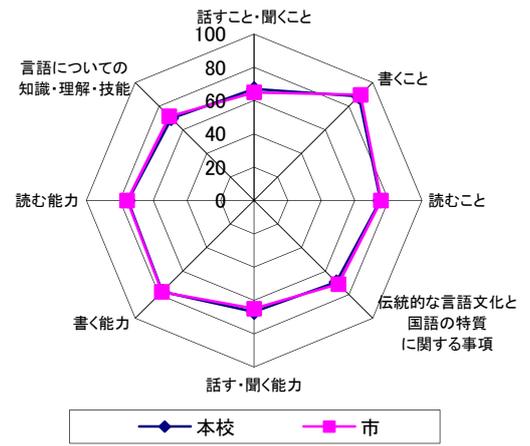


# 宇都宮市立峰小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	66.9	64.9	69.8
	書くこと	88.4	89.8	81.9
	読むこと	75.2	75.6	75.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.4	71.0	75.0
観点別	話す・聞く能力	66.9	64.9	69.8
	書く能力	77.4	77.7	73.7
	読む能力	75.2	75.6	75.1
	言語についての知識・理解・技能	69.8	71.4	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

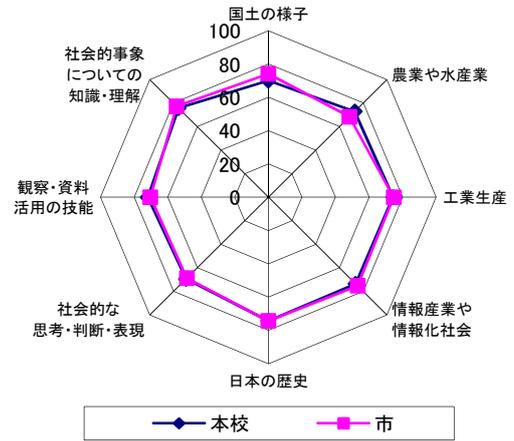
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の正答率は66.9%で市の正答率を上回っている。</li> <li>○総じて設問ごとの正答率は市平均を上回っている。</li> <li>●話し手の意図を考えながら話し合いの内容を聞く問題に対する正答率が市平均より約2パーセント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校課題として「コミュニケーション能力の向上」をかけた、取り組んできている成果が出ていると考えられる。次年度も継続して指導を積み重ねていきたい。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の正答率は88.4%で市の正答率をわずかに下回った。</li> <li>●指定された長さで文章を書くことが苦手な傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科の「書くこと」を中心内容とした単元の指導を充分に行うとともに、他教科でも指導を充実させていく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の正答率は75.2%で市の正答率をわずかに下回った。</li> <li>○2つの意見文を読み比べて、適切な内容を補って文章を書くことに対する正答率は市の正答率を約6パーセント上回っている。</li> <li>●2つの意見文を読み比べて、文章の書き方の類似点を探す設問に対する正答率は、市の正答率を約4パーセント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科の「意見文」を学習する際に、文の構成についての指導を充実させる。</li> </ul>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の正答率は69.4%で市の正答率を若干下回った。</li> <li>○述語に対する理解をみる設問の正答率は、市の正答率を約10パーセント以上上回っている。</li> <li>●漢字の書きに対する正答率が、市の正答率より若干低い傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の指導を充実させたり、定期的にプリントなどで復習を実施し、確実な定着を図っていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立峰小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	70.0	74.1	72.5
	農業や水産業	72.9	68.4	61.6
	工業生産	74.3	74.7	68.2
	情報産業や情報化社会	73.6	75.3	74.0
	日本の歴史	74.3	74.4	69.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	69.4	68.7	64.2
	観察・資料活用 of 技能	71.9	70.3	68.1
	社会的な事象についての知識・理解	75.7	77.3	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

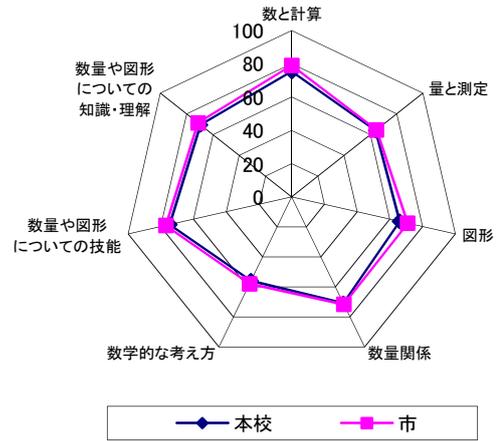
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の正答率は70%で市の正答率74.1%を下回った。</li> <li>○日本の周辺の海洋名への理解をみる設問の正答率は、市の正答率を約5パーセント上回っている。</li> <li>●森林を守るための取組みの「間伐」への理解をみる設問の正答率は、市の正答率を約10パーセント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林の学習を進める際には、視聴覚資料を有効活用するなど、児童の理解を深める工夫をする。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の正答率は72.9%で市の正答率68.4%を上回った。</li> <li>○日本国内の農産物の生産地への理解をみる設問や、日本の食料生産についての理解をみる設問に対する正答率は、市の正答率を約8パーセント以上上回っている。</li> <li>●米作りに向いている地域の特色への理解をみる設問に対する正答率は、市の正答率を若干下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●米作りに対する理解が市と比較すると低い傾向がみられる。米作りの学習を進める際には、米という作物の栽培上の性質や品種改良についても丁寧に扱い、理解を深められるように工夫する。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の正答率は74.3%で市の正答率74.7%を若干下回った。</li> <li>○日本の工業地帯や工業地域の特色への理解をみる設問の正答率は、市の正答率をわずかに上回った。</li> <li>●自動車生産の工程に対する理解をみる設問に対する正答率は、市の正答率をわずかに下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自動車生産について学習を進める際には、資料集や視聴覚資料を有効に活用するとともに、可能ならば自動車工場の社会科見学を実施するなど、体験的な理解ができるような学習計画を立てる。</li> </ul>
情報産業や情報化社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の正答率は73.6%で市の正答率75.3%を若干下回った。</li> <li>○コンビニエンスストアを例にした情報ネットワークへの理解をみる設問に対する正答率は、市の正答率をわずかに上回った。</li> <li>●情報の利用の仕方についての判断力をみる設問に対する正答率は、市の正答率を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報についての学習を進める際には、情報モラルについても確認しながら学習を進め、児童の判断力を養うように努力する。</li> </ul>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の正答率は74.3%で市の正答率74.4%とほぼ同じであった。</li> <li>○参勤交代が大名に与えた影響についての理解をみる設問や、明治・大正時代に国際的に活躍した日本人への理解をみる設問に対する正答率は、市の正答率を約5パーセント以上上回った。</li> <li>●「書院造」の特徴を記述する設問に対する正答率は、市の正答率を約10パーセント以上下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各時代の文化について学習する際には、その特徴をしっかりと学習させるとともに、その文化が現在にどう影響を与えているかという観点からも学習させていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立峰小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.3	79.0	78.9
	量と測定	64.0	64.6	66.2
	図形	66.0	70.9	77.8
	数量関係	70.9	71.6	66.6
観点別	数学的な考え方	55.9	57.8	54.8
	数量や図形についての技能	74.5	76.9	75.2
	数量や図形についての知識・理解	69.5	71.3	75.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

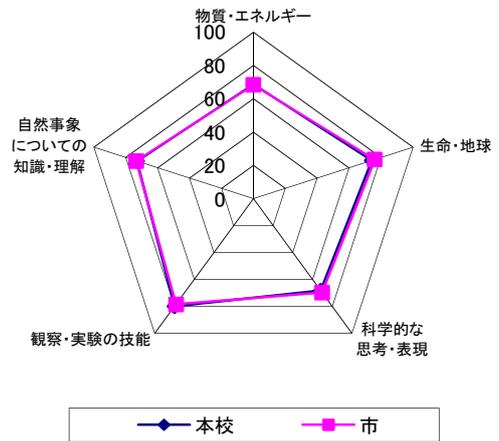
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の正答率は75.3%で、市の正答率79.0%を下回った。</li> <li>○小数第一位÷小数第一位の計算の正答率は、市の正答率を上回った。</li> <li>●分数÷分数で約分が2回ある計算の正答率は、市の正答率を大きく下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数や分数の計算を学習する際には、やり方を分かり易く指導するとともに、宿題やプリントなどで定期的に復習の機会を設け、定着を図っていく。</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の正答率は64.0%で、市の正答率64.6%をわずかに下回った。</li> <li>○平行四辺形の面積を求める公式を選択する問題の正答率は75.7%で、市の正答率を約5パーセント以上上回った。</li> <li>●展開図を組み立ててできる三角柱の体積を求める問題の正答率は、市の正答率を約5パーセント以上下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形に関する問題で、既習の知識を活用して求答する問題の正答率が低い傾向が見られる。図形の学習を進める際には、一つひとつの図形の性質をしっかりと理解させるとともに、それらを応用して解決する問題にも取り組ませるようにして、理解を深めていく。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の正答率は66.0%で、市の正答率70.9%を下回った。</li> <li>○合同な三角形を作図する問題の正答率は、市の正答率を上回った。</li> <li>●対称な図形に関する問題の正答率が市の正答率より低い傾向がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対称な図形の学習をはじめとして、図形の学習を進める際には、具体物や算数フラッシュなどを有効に活用しながら、児童が視覚的に理解できるような工夫をする。</li> </ul>
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の正答率は70.9%で、市の正答率71.6%をわずかに下回った。</li> <li>○円グラフから割合を読み取り比較量を求める問題の正答率は、市の正答率を約5パーセント上回った。</li> <li>●2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率は、市の正答率を約5パーセント以上下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・xやyの文字の式を活用した問題に対する正答率が低い傾向がみられる。文字の式は、児童にとって抵抗感があるが、□や○などを使った式は、学習を積み重ねてきている。なので、これらの既習体験をxやyを使った式につなげられるような工夫をしていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立峰小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.7	68.3	68.1
	生命・地球	74.2	76.0	73.8
観点別	科学的な思考・表現	68.3	69.7	68.0
	観察・実験の技能	79.9	78.4	77.0
	自然事象についての知識・理解	72.9	73.4	73.9



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○本校の正答率は68.7%で、市の正答率の68.3%を上回っている。</p> <p>○物のとけかた(食塩とミョウバン)に関する問題の正答率は全ての設問で市の正答率を上回った。</p> <p>●電流のはたらき(電磁石)に関する問題の正答率が市の正答率よりも低い傾向がみられる。</p>	<p>・電流のはたらき(電磁石)の学習を進める際には、実験ごとに結果を一つひとつ整理し、児童が目に見えない電流のはたらきについての理解をスモールステップで深めていけるような工夫を行う。</p>
生命・地球	<p>●本校の正答率は74.2%で、市の正答率の76.0%を下回った。</p> <p>○植物のつくりとはたらきの学習の、ヨウ素でんぷん反応に対する正答率は、市の正答率を上回った。</p> <p>●生物とかんきょうの学習の、食べ物を通した動物と植物の関係を問う問題の正答率は、市の正答率を約5パーセント以上下回った。</p>	<p>・生物とかんきょうに対する設問の正答率が、市の正答率よりも低い傾向がみられる。この単元の学習は、児童にとって体験的・視覚的に理解が難しい面もあるが、他教科(社会など)との関連も図りながら、児童が学習してきた知識を生かしながら学習を進められるような工夫をしていく。</p>